

日本教育方法学会 第32回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 10月5日・土	10：00	課 題 研 究 I			課 題 研 究 II		
	12：30	休 憩					
	13：30	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6
	15：40						
	15：50	シ ン ポ ジ ウ ム					
	18：20						
	18：30	会 員 懇 親 会					
	20：00						

第 二 日 10月6日・日	9：30	自由研究 7	自由研究 8	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12
	12：00 12：10	総 会					
	13：00	休 憩					
	14：00	課 題 研 究 III			課 題 研 究 IV		
	16：30						

1996年10月5日(土)・10月6日(日)
於 大 阪 教 育 大 学

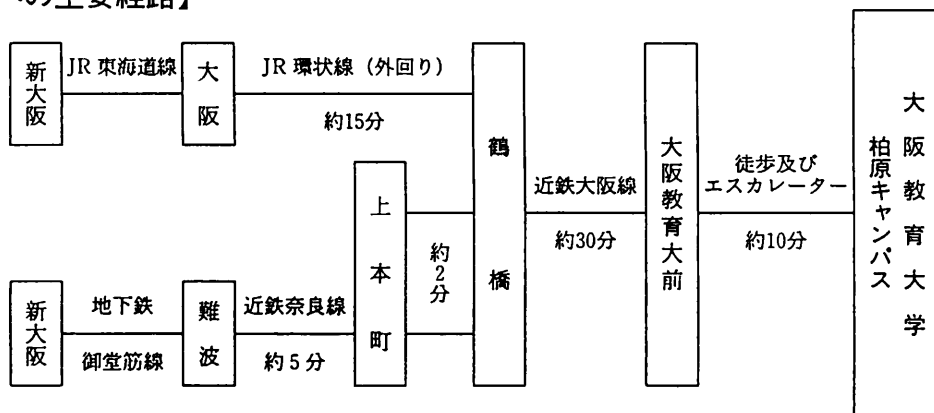
大会参加要領

1. 会場案内：大阪教育大学柏原キャンパスは、近鉄大阪線「大阪教育大前」駅より、徒歩およびエスカレーターで約10分です。会場への経路の詳細につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日(10月5日・土)、第2日(10月6日・日)とも9:00からです。
 - ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員3,000円、学生会員2,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（96年度・95年度：一般会員6,500円、学生会員4,000円、94年度以前：一般会員5,500円、学生会員4,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度（96年度）の学会費を納入された方は、受付の際に『教育方法25』をお受け取りください。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。詳しくは、12頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：第1日(土)は、大学会館内の生協食堂をご利用ください（営業時間は、11:00～14:00です）。
第2日(日)は、生協食堂が閉店いたしますので、受付にて弁当券を販売する予定です。
なお、会場付近には飲食店はありません。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4頁の「講義棟の案内図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）
 - ・本プログラムに記載されているコーディネーターおよび司会者、提案者の氏名は、五十音順です。
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名は、「発表申込用紙」に記入された順序によります。また、○印は口頭発表者です。
5. 会場校連絡先：〒582 大阪府柏原市旭ヶ丘4-6 9 8-1
大阪教育大学教育学部教育学研究室

なお、大会に関するお問い合わせは、学会事務局（TEL. 0824-24-6744）にお願いいたします。

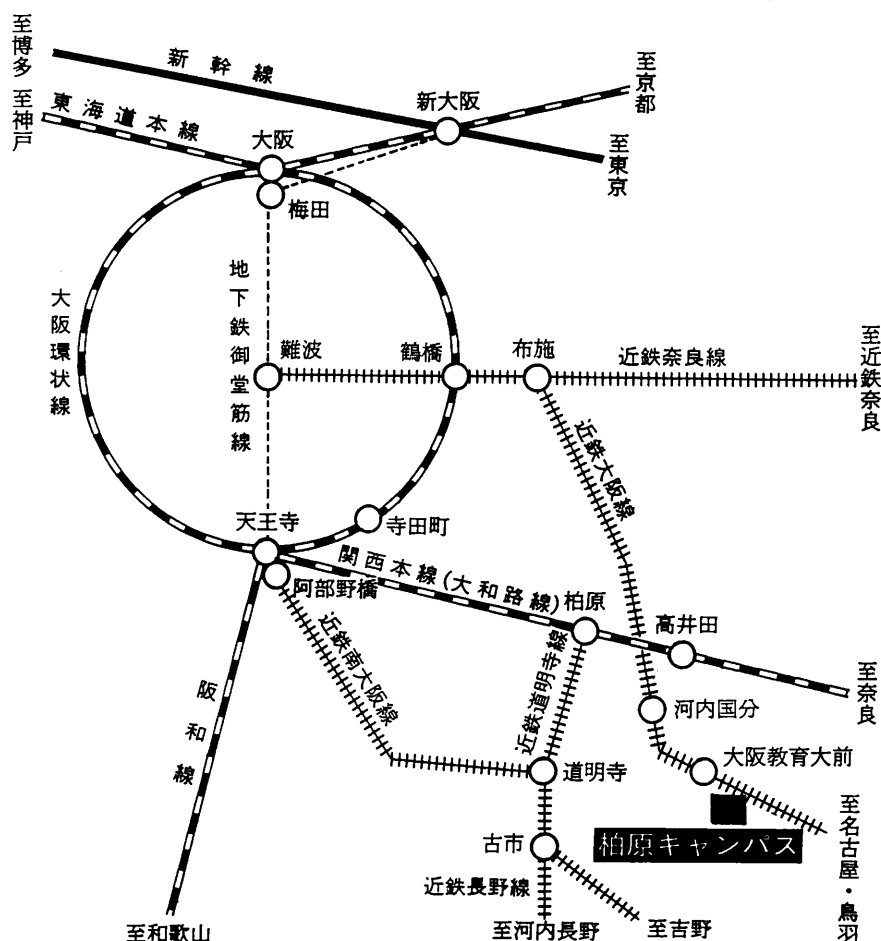
<大阪教育大学案内図>

【会場への主要経路】

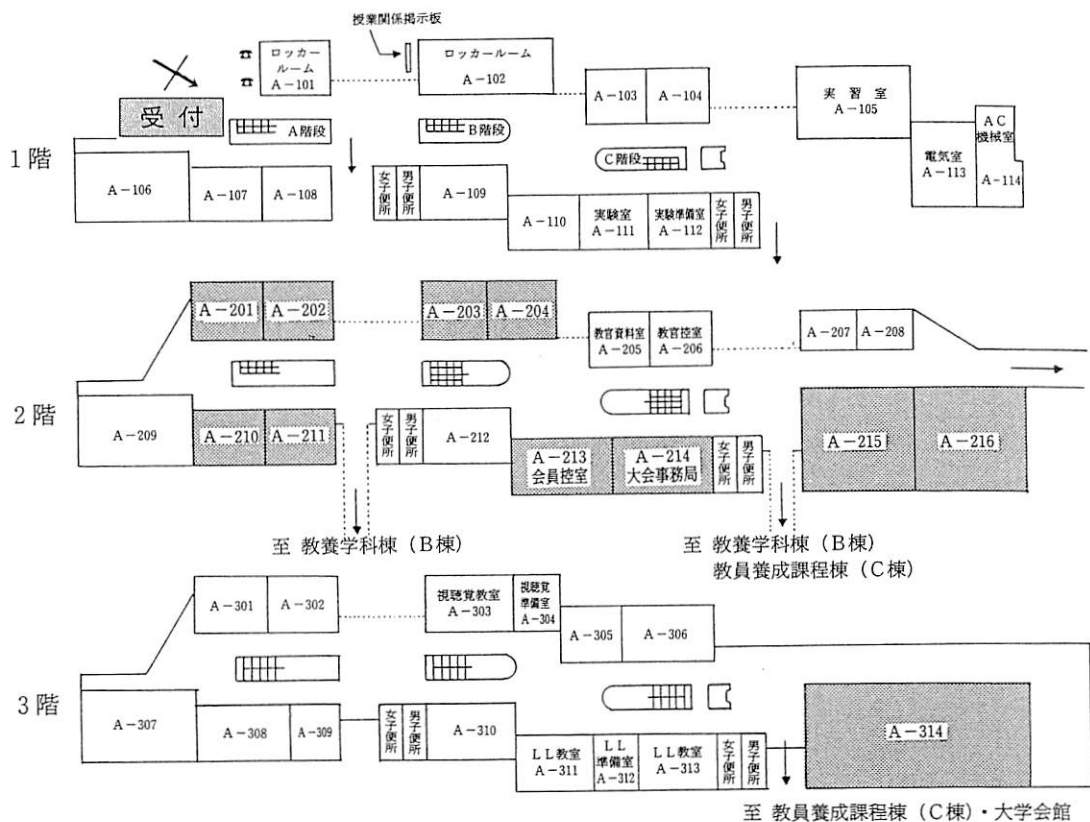


◎難波から近鉄奈良線にご乗車の方は、上本町あるいは鶴橋で、必ず近鉄大阪線にお乗り換えください。なお、大阪教育大前駅には準急しか停車しませんので、ご注意ください。

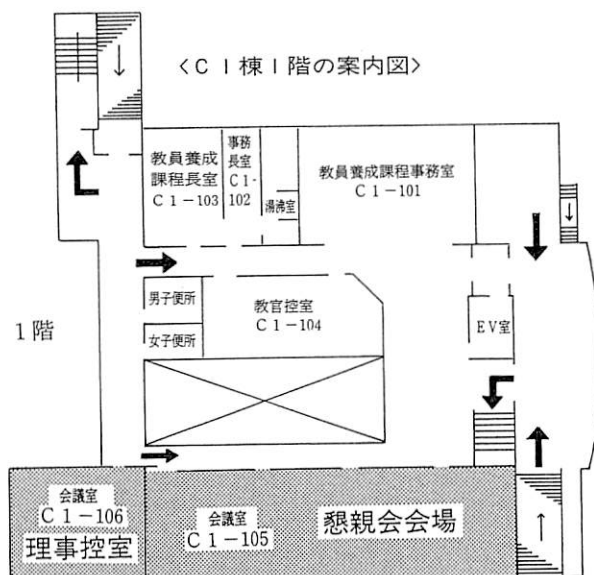
◎お車でお越しの場合、大阪方面から西名阪自動車道の柏原ICを降りて1つ目の信号を右折してください（正門をご利用ください）。



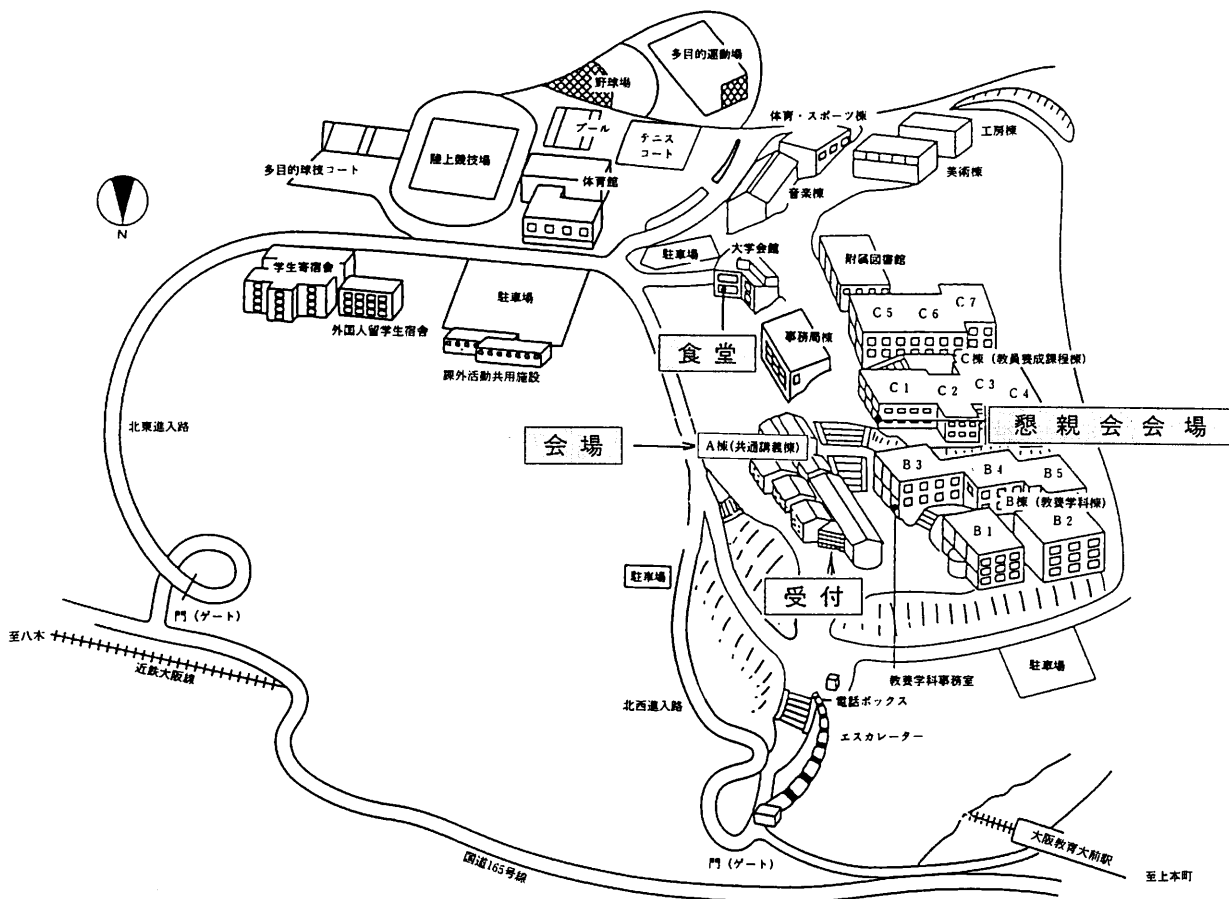
<講義棟の案内図>



<C棟1階の案内図>



柏原キャンパスマップ



課題研究Ⅰ・Ⅲ : A-216室
 課題研究Ⅱ・Ⅳ : A-215室
 自由研究Ⅰ・Ⅶ : A-201室
 自由研究Ⅱ・Ⅷ : A-202室
 自由研究Ⅲ・Ⅸ : A-211室
 自由研究Ⅳ・Ⅹ : A-210室
 自由研究Ⅴ・Ⅺ : A-203室
 自由研究Ⅵ・Ⅻ : A-204室
 シンポジウム・総会 : A-314室

* 会員控室は、講義棟2階のA-213室です。
 理事控室は、C1棟(教員養成課程棟)
 1階の会議室(C1-106室)です。
 お茶などを用意しております。

* 大会事務局は、講義棟2階のA-214室です。

* 会員懇親会は、C1棟(教員養成課程棟)
 1階のC1-105室で開催いたします。

10月5日(土) 午前

課題研究 I

戦後授業研究の成果と課題

(A-216室)

(10:00~12:30)

コーディネーター・司会者

杉山 明 男 (吉備国際大学)

豊田 ひさき (大阪市立大学)

提案者

河原 尚 武 (鹿児島大学) 学力形成の課題と授業研究19

乗原 昭 徳 (山口大学) 1970年代の学習集団づくり実践20

—学級の歴史づくり・3つの指導対象・学習規律の指導の構想—

清水 毅四郎 (滋賀大学) 学習者研究と内容・方法研究を結ぶ授業研究を …21

(コーディネーターによる設定趣旨)

本課題研究は、本会で3回目を迎える。これまでの内容は、授業研究草創期からの歴史的な総括、60~70年代にかけてのいわゆる授業研究運動の成果と課題が中心であった。

本年度は、これを受けて、研究者と現場実践家が共同してつくり上げていく授業研究のスタイルがいよいよ本格化する70~80年代にかけて展開された諸実践を、①教育内容・方法の開発・創造の問題と授業研究、②学習集団の問題と授業研究、③学力形成の問題と授業研究という3つの側面から検討してみたい。①に関しては、社会科を中心に清水氏から、②に関しては、学習集団の授業づくりの現場経験がある乗原氏から、③に関しては、学力論に造詣が深い河原氏から、提案していただく。

現実の授業実践を視座に据えた3氏の提案をもとに、戦後授業研究の諸成果について若干の整理を行なう。と同時に、いったい授業で子どもに「なに」を「どう」教えていけばよいのか、という授業研究の課題について、教師の力量形成との関連も視野に入れながら、さらなる展望を試みてみたい。

10月5日（土） 午前

課題研究 II

子どもの文化状況と教育実践の課題

(A-215室)

(10:00~12:30)

コーディネーター・司会者

小川 博久 (東京学芸大学)

笹本 正樹 (高松短期大学)

提案者

岡 健 (盛岡大学) 「遊び」調査を通して見た子どもの文化状況と教育実践の課題22

中井 孝章 (大阪市立大学) 子どもの文化状況と教育実践の課題23

森本 信也 (横浜国立大学) 学校知と日常知を融合させた子どもの実感的な科学理解とこれに応える教育実践上の課題24

(コーディネーターによる設定趣旨)

情報化社会の進行は子どもをとりまく〈文化状況〉を大きく変化させた。子どもの日常は家庭や地域の人間関係や〈モノ〉とのかかわりにおいて著しい変化を示している。まず情報の力で政治・経済はもちろん物流や対人関係が左右される生活がある。パソコン、TV、VTR、ラジオ、CD、電話といった情報機器なしにおとなの生活も子どもの生活も成立しない。同様に消費文化の普及は〈モノ〉の意味（使用価値）を貨幣の交換価値にのみ還元する傾向があり、その結果、貨幣の交換価値に置き換えられない精神的価値（愛情、友情、真実、美）といったものや、自然環境が子どもにとって抽象的な存在になりつつある。それは子どもの人間関係を結ぶ実感としての友情というものを作りあげる体験が何であるかを見失わせることにもなりかねない。こうした状況の中で教育実践は子どもたちに学ぶことの必要性や動機をどのように構成すべきかそれを考えたい。

岡氏は子どもの遊び調査をしており、子どもの人間関係について、中井氏は子どもの感性について、森本氏は子どもをとりまく文化状況としての環境とのかかわりについて提案してもらい、そこから教育実践を論じてもらおうと思う。

10月5日(土) 午後

自由研究 1

(A-201室)

司会者 霜 田 一 敏 (愛知淑徳大学)
諸 岡 康 哉 (金 沢 大 学)

- 13:30 ① 現代学校教育論と学校観の転換
－戦前戦後教師論からの一考察－25
角 野 幸 代 (神戸女子大学大学院)
- 14:00 ② 言語の観点に基づく比較授業分析の方法について
－日中両国における国語の授業を素材として－26
李 霜 華 (九州大学大学院)
- 14:30 ③ 中日におけるドルトン・プランの受容と展開
－呉淞中学(中国)の例－27
劉 力 (ECC国際外語専門学校非常勤)
- 15:00 ④ 授業における「史観」の問題について28
山 崎 雄 介 (光華女子短期大学)

自由研究 2

(A-202室)

司会者 三 原 征 次 (大 分 大 学)
山 住 勝 広 (大阪教育大学)

- 13:30 ① 小学校における学年的発達について
－年齢別学年制の成立基盤についての一考察－29
宮 崎 やよい (九州大学大学院)
- 14:00 ② 子どもの活動における実務性と虚構性30
松 田 己統美 (広島大学研究生)
- 14:30 ③ キャロライン・プラットの遊び論の研究
－想像力を育む幼児教育論－31
橋 川 喜美代 (鳴門教育大学)
- 15:00 ④ ヴィゴツキーの「発達の最近接領域」と足場指導法への発展32
尾 崎 春 人 (銀嶺幼稚園)

10月5日(土) 午後

自由研究3

(A-211室)

司会者 宮原 修 (お茶の水女子大学)
山田 昇 (奈良女子大学)

- 13:30 ① 芸術教育から教育芸術へのパラダイム転換
— Ernst Weber の教育芸術論を手がかりに —33
荒巻 敦 (広島大学大学院)
- 14:00 ② 「島小の授業」を読む(その2)
— 赤坂学級・4年算数を例に —34
北川 金秀 (兵庫県立加古川看護専門学校)
- 14:30 ③ 斎藤喜博の「授業の展開」の分析(1)35
井上 光洋 (大阪大学)
- 15:00 ④ 木下竹次の授業論
— 回想録「新教育の探究者」の分析を通じて —36
○西 森 章子 (大阪大学大学院)
○永 田 智子 (兵庫教育大学)
井上 光洋 (大阪大学)

自由研究4

(A-210室)

司会者 奥平 康照 (和光大学)
白井 慎 (法政大学)

- 13:30 ① 子どもの「無気力」に関する一考察
— 聞き取り調査を中心として —37
田 森 三佳子 (お茶の水女子大学大学院)
- 14:00 ② 「子どもの声をきく」ことの意味
— 宮坂哲文における「学級」概念の検討(2) —38
山 岸 知 幸 (広島大学大学院)
- 14:30 ③ 戦後初期における「自治」概念の検討
— 石橋勝治の実践をてがかりに —39
田 代 高 章 (広島大学大学院)
- 15:00 ④ 高校生の学校満足度と学校選択の要因
— 新潟市の調査から —40
大 桃 伸 一 (県立新潟女子短期大学)

自由研究5

(A-203室)

司会者 天野正輝 (京都大学)
土井捷三 (神戸大学)

- 13:30 ① 教科教育とカリキュラム開発の課題41
高橋英児 (広島大学大学院)
- 14:00 ② 性教育における教授内容と privacy の関係42
佐藤年明 (三重大学)
- 14:30 ③ ドイツの就学前教育カリキュラムの改革とその課題について43
豊田和子 (高田短期大学)
- 15:00 ④ 「覚えておくテスト」から「考えるテスト」へ
—高校入試社会科問題の分析から—44
小池俊夫 (日本私学教育研究所)

自由研究6

(A-204室)

司会者 高田喜久司 (上越教育大学)
渡邊光雄 (筑波大学)

- 13:30 ① 構成主義的授業研究
—教授・学習研究における構成主義的考察方法の探究—45
小柳和喜雄 (常磐大学)
- 14:00 ② マルチ映像記録を活用した授業観察視点の抽出46
○平山勉 (秋田大学)
後藤明史 (名古屋大学)
- 14:30 ③ 双方向通信を利用した新教育システムの研究47
○守屋誠司 (山形大学)
○黒田恭史 (大阪教育大学附属池田小学校)

10月5日(土) 午後

シンポジウム

「いじめ」問題に教育方法学はどう取り組むのか

(A-314室)

(15:50~18:20)

司会者

市川 博 (横浜国立大学)

木下 繁弥 (大阪教育大学)

提案者

浅野 誠 (中京大学) <子ども社会>を育てることを軸に考える ……48

麻生 信子 (筑紫女学園大学非常勤) 教師にできるのは、ものの見方・考え方を育てる授業です
……………49

桂 正孝 (大阪市立大学) 反差別・人権教育の積極的展開を ……50

野口 克海 (大阪府教育委員会) ……51

恒吉 宏典 (広島大学) ——趣旨説明

(設定趣旨)

「いじめ」問題については、さまざまな角度から議論されてきている。本学会でも、第21回大会(1985年、新潟大学)で課題研究「子どもの人間的自立と教育実践・研究の課題ー『いじめ』『登校拒否』等の問題と教育方法ー」を設定したのはじめ、この問題には関心をよせて取り組んできている。これまでの議論の中心は、学級づくりや授業づくりの立場から「いじめ」問題への解決策を検討・考察し、一定の実践指針を見いだそうとしてきた点に特徴があった。

しかしながら、教育現場での「いじめ」対策の現実には、いじめ調査や隔離対策に終始したり、あるいは子どもの心理的な問題に還元してしまう傾向にあるのではないだろうか。さらには、学校にスクールカウンセラーを配置する動向も、期待と同時に、学級での居場所や担任教師への信頼を喪失することになるのではないかとといった懸念も指摘されている。また学年制や学級編成という教育システムを批判し、学校教育制度そのものを否定するラディカルな論議も見られる。

このような動向の中で、学級づくりや授業づくりによって「いじめ」問題を解決しようとしてきた従来の教育方法学の取り組み方や「知の枠組み」も問い直されてきているのではないだろうか。本シンポジウムでは、以上のような問題意識をふまえつつ、それぞれのご専門の立場から、生活指導、教科教育、授業研究、人権教育、教育実践研究等において、あらためて「いじめ」問題に教育方法学がどのように取り組むのかを提案していただき、そのことをもとに、多くの会員の皆さんとこの問題に対する教育方法学の役割について議論していきたい。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(10月5日・土) 18:30から
会 場 : C1棟(教員養成課程棟) C1-105室
会 費 : 3,000円程度

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

●総 会

日 時 : 第2日(10月6日・日) 12:10~13:00
会 場 : A-314室(大講義室)
主な議題 : 会務報告
1995年度決算
1997年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第25巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送させていただきます。)

10月6日(日) 午前

自由研究7

(A-201室)

司会者 平野智美 (上智大学)
森脇健夫 (三重大学)

- 9:30 ① デューイにおける「コミュニケーション」概念の考察53
高橋佳子 (筑波大学大学院)
- 10:00 ② 幼児教育方法の「アメリカ化」に関する一考察54
北野幸子 (広島大学大学院)
- 10:30 ③ コミュニケーション教授学における授業成立の方略55
米井公介 (広島大学大学院)
- 11:00 ④ フレーベルの「言葉」に関する人間学的考察
ー対話関係としての人間形成ー56
船越美穂 (福岡教育大学)
- 11:30 ⑤ あそびにおける「物語性」と「共同性」に関する考察(2)57
長瀬美子 (大谷女子大学)

自由研究8

(A-202室)

司会者 井谷善則 (大阪教育大学)
田代高英 (福岡教育大学名誉教授)

- 9:30 ① 「居間の教育」思想の「伝説化」と「現在化」58
福田敦志 (広島大学大学院)
- 10:00 ② 幼児期における主体形成と保育指導について
ー「主体」概念を中心にー59
光本弥生 (新見女子短期大学)
- 10:30 ③ 短期的指導案における保育的構想の特徴60
師岡章 (東京学芸大学非常勤)
- 11:00 ④ 遊びの幼小比較とその指導
ー保育と生活科における遊び支援ー61
腰山豊 (聖園学園短期大学)
- 11:30 ⑤ 現職教育における実践的研究の視座62
上野ひろ美 (奈良教育大学)

10月6日（日） 午前

自由研究9

(A-211室)

司会者 岩 垣 攝 (千葉大学)
田 中 耕 治 (兵庫教育大学)

- 9:30 ① 授業研究における「教育的タクト」の位置と役割63
尾 島 卓 (広島大学大学院)
- 10:00 ② 授業形態の適性と効力の比較検討64
大 庭 茂 美 (九州女子大学)
- 10:30 ③ ティームティーチングを利用した算数指導の効果65
－異なる指導形態が児童の算数理解に及ぼす効果についての比較検討－
○藤 村 宣 之 (埼玉大学)
○大 田 正 義 (大阪府茨木市立郡小学校)
- 11:10 ④ 追求形態の授業において、子どもの複数の発言を素材とした対立問題化過程で
行なう整理・分類活動の認識論的意味と方法66
○宮 坂 義 彦 (聖路加看護大学)
○戸 田 淳 子 (長野県駒ヶ根市立赤穂東小学校)

自由研究10

(A-210室)

司会者 長 田 勇 (愛知大学)
木 下 百合子 (大阪教育大学)

- 9:30 ① 地理教材構成の論理
－開かれた社会認識形成－67
草 原 和 博 (広島大学大学院)
- 10:00 ② 五つの基本テーマを用いた地理の教授－学習活動68
中 野 真 志 (大阪市立大学大学院)
- 10:30 ③ 子どもの認知的観点の明示化に基づく社会科の指導と評価69
寺 尾 健 夫 (福井大学)
- 11:00 ④ 中1幾何の博物学的構想70
正 田 良 (武蔵中学校)
- 11:30 ⑤ 生活的概念・理論と学習とのかかわりに関する発達的研究並びにそれに基づく
教育内容の検討(4)
－わかりやすい力学領域の内容編成－71
関 谷 健 (元京都・田辺高等学校)

自由研究11

(A-203室)

司会者 小 泉 祥 一 (高 知 大 学)
中 野 和 光 (福 岡 教 育 大 学)

- 9:30 ① 実践的指導力の基礎づくりと授業科目「教育参加」の意義72
土 井 進 (信州大学教育学部附属
教育実践研究指導センター)
- 10:00 ② 教師教育カリキュラムの再編原理に関する実証的研究
ー茨城大学における今日的課題への対応をもとにー73
○新 井 孝 喜 (茨 城 大 学)
戸 塚 茂 則 (茨 城 大 学)
- 10:30 ③ T. Tによる授業の設計・実施・評価に関する調査研究
ー小学校における実践を対象としてー74
○浅 田 匡 (神 戸 大 学)
○古 川 治 (箕面市教育センター)
- 11:10 ④ 大学におけるCAI教育改革の実際
ーアパレルCAD検定新設の取り組みを通じてー75
○佐 藤 善 一 (女子美術短期大学)
○小 倉 文 子 (女子美術短期大学)
○江 川 澄 子 (女子美術短期大学)

自由研究12

(A-204室)

司会者 小 島 律 子 (大 阪 教 育 大 学)
齋 藤 浩 志 (龍 谷 大 学)

- 9:30 ① 戦後音楽科単元学習の歴史的意義76
津 田 正 之 (東京学芸大学大学院)
- 10:00 ② 知的障害児の表現活動におけることば・動き・音の関連性(II)
ー動きを基盤にした音楽づくりの場合ー77
下 出 美智子 (大阪教育大学附属養護学校)
- 10:30 ③ 「発生的音楽教育法」による授業の検討
ー表現する子どもを育てるー78
桂 直 美 (三 重 大 学)
- 11:00 ④ 映像と文字記録による日中比較授業分析
ー新美南吉「赤いろうそく」を共通教材としてー79
○中 村 亨 (九 州 大 学)
○李 霜 華 (九州大学大学院)
○宮 崎 やよい (九州大学大学院)

10月6日(日) 午後

課題研究Ⅲ

新しい学校像と教育課程改革の課題

(A-216室)

(14:00~16:30)

コーディネーター・司会者

柴田 義松 (成蹊大学)

水越 敏行 (関西大学)

提案者

安彦 忠彦 (名古屋大学) 社会教育機関の一つとしての学校・文化活動の場としての学校80

佐藤 学 (東京大学) 一名大教育学部附属高校「総合人間科」の実践を例として－公共性の再構築へ＝学校改革への指標81

武村 重和 (広島大学) 学校の教育課程82

長尾 彰夫 (大阪教育大学) カリキュラム・ポリシーの批判的分析を中心に83

(コーディネーターによる設定趣旨)

戦後50年たった今日、わが国の学校教育は大きな転換期にさしかかり、緊急の解決を要するさまざまな課題に直面している。陰湿ないじめ、増え続ける登校拒否、一向に収まらない受験競争の過熱化など、学校や子どもを取り巻く社会状況は厳しく、問題はますます深刻化している。また、学校週5日制の実施、環境教育・情報教育・性教育・国際理解教育などの新しい教育課題の出現は、教育課程のドラスチックな改変を余儀なくしているように思われる。第15期中教審も中間報告において、「生きる力」の育成と「ゆとり」の回復を基本とするこれからの学校教育の在り方を提言している。

教育方法学研究者の立場から、これらの問題についてどのように考え、どのように取り組むべきかを討議したい。

課題研究Ⅳ

「学級」システムを問い直す

(A-215室)

(14:00～16:30)

コーディネーター・司会者

磯田 一雄（成城大学）

加藤 幸次（上智大学）

提案者

碓井 岑夫（和歌山大学） 「学級」を問い直す

ー日本の学級づくりの教育実践からー ……84

寺尾 慎一（福岡教育大学） 一斉授業の成立過程からその発展を考える ……85

奈須 正裕（神奈川大学） 対立、それとも融合？

ー集団か個かの論争をめぐるー ……86

成田 幸夫（愛知県大府市立大府中学校） 学校教育課程の変質と「学級」機能の現実 ……87

（コーディネーターによる設定趣旨）

学級は教育実践の原点であり、教育方法の改革は学級システムの改革と常に結びついている。日本の学校では長い間学年制の単式編成による学級システムが国民的合意を得ており、その前提のもとに「学級経営」・「学級づくり」の実践が進められてきた。しかしその学級＝日本の生活・学習共同体は今や崩壊＝解体の危機にあるという。伝統的な学級システムの変革は避けられないとしても、学校にはなんらかの形でグレードを勘案した子どものグルーピングが必要だとも考えられる。個別化指導の場合でも「学級」の集団力学の影響を全く無視することは適当でない。また通年制のHRのような純粋な「生活集団」が別に編成されていない限り、学級は学習集団であると同時に常に生活集団としての側面をもっている。ティーム・ティーチングの導入や選択幅の拡大などさまざまな新しい実践的試みは、当然学級システムの改革を要求することが予想される一方、一教員当たりの生徒数によって学校の教員定数が定められている諸外国に比して、学級数で教員定数を定められる日本の小・中学校にはそもそも学級編成上の自由がない。諸外国の学級システムとの比較をも視野に入れた総合的な検討をお願いしたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法 1.	教科内容・指導方法の現代化	1 9 6 6	(品切れ)
教育方法 2.	授業改造の基本問題	1 9 6 8	(品切れ)
教育方法 3.	授業の組織化と教師の指導性	1 9 6 9	(品切れ)
教育方法 4.	学力差と教授・学習過程	1 9 7 0	(品切れ)
教育方法 5.	教育方法学 '70年代の課題	1 9 7 2	(品切れ)
教育方法 6.	授業研究の課題と方法	1 9 7 4	(品切れ)
教育方法 7.	現代学校教育論の再検討	1 9 7 5	(品切れ)
教育方法 8.	教育課程再編の原則	1 9 7 6	(品切れ)
教育方法 9.	現代訓育理論の探究	1 9 7 7	(2,163円)
教育方法10.	学力の構造と教育評価のあり方	1 9 7 9	(品切れ)
教育方法11.	現代授業理論の争点と教授学	1 9 8 0	(2,472円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1 9 8 2	(2,678円)
教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 4	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,884円)
教育方法15.	実践にとって教授学とは何か	1 9 8 6	(2,266円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,472円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,987円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(2,000円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,760円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,760円)
教育方法21.	自己学習能力の育成と授業の創造	1 9 9 2	(1,760円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,860円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,860円)
教育方法24.	戦後教育方法研究を問い直す	1 9 9 5	(2,890円)

最新刊・教育方法25 戦後50年、いま学校を問い直す

<内 容>

- I. 戦後50年、いま学校を問い直す
- II. 「指導」概念の再構成 - 「支援」「援助」との関係で -
- III. 「居場所」概念の教育方法学的検討
- IV. 学校五日制と教育課程編成の課題 - 現行指導要領の何をこそ改訂すべきか -
- V. 教育におけるコンピュータ利用の新しい方向

「教育方法」は、大会当日、会場にて会員割引価格で販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

第18巻からは「会員配布制」となりましたので、学会費を納入され
た方には、明治図書より直接お手元まで郵送いたします。

〒170

東京都豊島区南大塚 2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)0482-56-1175